

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 四万十町立七里小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒786-0082

高知県高岡郡四万十町七里甲 1 2 1 4

E-mail 410020@town.shimanto.lg.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 28 名 女子 24 名 合計 52 名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自ら学び・考え・行動し、人とつながる力を持った子どもの育成」を学校教育目標として、ESD を地域の人、地域の自然との「かかわり」「つながり」の核と捉え、ESD の実践を通して思考力・判断力・発信力の育成を目標とした。

具体的には、「つながりの中で七里に愛着を持ち、夢を持とう」を活動テーマに、①食に係わる学習、②環境に係わる学習、③福祉に係わる学習、④防災に係わる学習を行った。

① 食に係わる活動

栄養教諭による食育の授業や、日々の給食指導に合わせての食育指導など行ってきた。また、学校農園での栽培活動やコンテナを利用した生姜づくりも実施した。食育の授業においては、自分たちが生きるための食物が、他の命をいただいていることなど学習してきた。また、地域の食生活改善グループの方たちの協力を得て、朝食作りなどの体験学習を通して、食の大切さなど学んできた。

② 環境に係わる活動

2・3年生が、生活科及び総合的な学習の時間において「田んぼの生き物調査隊」の学習を行い、身近な自然環境の中に多様な生物が生きていることを学び、自分たちもその中で生きていることを学んだ。4年生では総合的な学習の時間において、四万十川財団の協力を得て、四万十川の水生生物による水質調査を行い、自然環境の保全について学習してきた。自然の豊かさ・恵みを体感し、保全意識を高めるために、カヌーや川遊び体験、鳥の巣箱づくり、河口の四万十市でのトンボ公園での学習なども実施した。また、環境委員会を中心に地域の協力を得て、アルミ缶回収を行った。

③ 福祉に係わる活動

5年生の総合的な学習の時間では、「福祉」をテーマに取り組んできた。高齢者疑似体験や車イス体験などを学習し、高齢化が進む地域において、何ができるか、誰もが豊かな暮らしを送るためには何が必要かなどを学習した。

④ 防災に係わる活動

6年生を中心に、七里地区自主防組織や四万十町役場危機管理課の協力のもと、段ボール防災ジオラマ作りに取り組んだ。フィールドワークやマップ作りを行ったことで、危険な場所や避難場所を知るだけでなく、地域の状況を知るよい学習となった。また、自主防災組織主催の防災キャンプにも参加し、体育館での寝泊まりを体験したことで、避難所生活や避難所運営の学習も深めることができた。

⑤ その他

高知大学の国際協力を目指す学生サークル「国際茶屋」と共催した国際交流地区民運動会や新居浜市立若宮小学校と1日交流会を通して、外国の文化に触れたり他校のユネスコスクールの取組を学んだりする中で交流を深めることができた。



① コンテナ生姜の収穫



② 水生生物調査



③ 高齢者体験



④ 防災ジオラマ授業

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

(web) 「クックパッド」 「暮らしの中の自然モノサシ市民調査」 「土砂災害危険個所マップ」 ユニバーサルデザイン、バリアフリーに関するサイト (書籍等) 「さあはじめよう！ 田んぼの生きもの調査 ー農 が支えるたくさんのいのち」(全農) 「高知県安全教育プログラム」(高知県教育委員会) 「命を守る防災Book」(高知県教育委員会)

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は、全校児童 52 名の小規模校である。行事や特別活動の多くは、保護者や地域の方の協力を抜きにしては成立しない。そこで、学校教育目標に「人とつながる力を持った子どもの育成」と位置づけている。本校のある四万十町は、四万十川をはじめとした豊かな自然に恵まれている半面、高齢化が進む地域であり、また、南海地震に備えて地域を挙げて取り組むことが喫緊の課題でもある。そこで、「恵まれた自然への感謝」「災害に強くなる地域」「(子どもから高齢者まで)誰もが豊かに暮らせる地域」を地域学習ととらえ、ユネスコスクールの活動をその核として取り組んでいる。本年度は、学年間のつながりや系統性が弱いという反省から、全体計画の見直し、ESDカレンダーの作成に取り組んだ。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

地域にある人材や体験活動のできる所の整理を毎年更新している。さらに、七里地区だけでなく四万十川流域の他市町村へも活動範囲を広げ、人材確保に努めている。また、組織的に取り組めるよう全体計画や目的、評価の観点等を年度当初に確認し、新しく赴任した職員に周知を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学校としての評価の観点や指導上の留意点を決め、共通認識を図り、1月に全体で成果と課題を協議した。(何のために学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるのか、どのように取り組むか)
外部評価については、外部講師の方との事後の話し合いで今後の取組や方向性について意見をもらった。また、年度末には学校評価委員会で取組や成果と課題について報告し、意見をもらった。
取組内容の学年間のつながりや外部講師の人材についていただいた意見を参考にして次年度の計画に反映する。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

保護者や地域の方に案内をし、多くの方が参加する「七里小あったかふれあいまつり」の中で学習発表を行っている。学習した内容を劇や音楽発表の中におり混ぜたり、プレゼンテーション式に発表したりするなど、学級ごとに工夫を凝らした形で発信した。どのようにまとめれば低学年から大人の人にもわかるか、どのように発表すればわかりやすいかなど、まとめ活動、発表活動において協働的な学びができた。また、学習発表会は地域の方のユネスコスクールとしての学習活動理解につながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に行っていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

県内の小学校にユネスコスクールの認定を受けている学校がないため、日常的・定期的な交流は行っていない。そんな中、昨年度、新居浜市での「ESDフェスティバル」で発表の機会をいただいたことがきっかけで、新居浜市立若宮小学校から交流会のお誘いがあり、本校に来ていただき、ゲームや取組発表、鳴子踊り等を通して交流することができた。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

地域の生産者や七里地区自主防組織の方、食生活改善推進員など毎年活動に関わっていただいていることで、地域の方との交流の機会が持てている。また、福祉施設やJA、町役場の方と関わることで、地域にある職業理解にもつながっている。
さらに、児童を中心とした主体的な学び、協働的な学びなど、新学習指導要領に記されている児童の学び方にも対応した学習ができている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

4月に年間計画、ESDカレンダーを作成し、ゲストティーチャーの依頼、具体的取組、まとめ・発信の方法、評価について決定する。
「食育」については、芋の栽培、コンテナ生姜づくり、収穫祭を活動の柱とする。「環境」については、田んぼや川の生きもの調査、四万十川に関する学習を柱とし、お米作りを行う。「福祉」については、高齢者体験や福祉施設訪問を柱とし、地域に呼びかけてアルミ缶回収を行う。「防災」については、地震、土砂災害の学習を柱とする。また、自主防災組織と連携した避難所運営についても、自分たちにできることを体験する学習を進める。学習したことについては、学習発表会や「学校だより」を通じて地域へ発信する予定である。